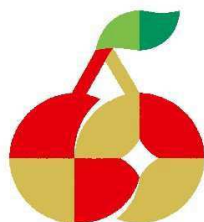


プレスリリース



いちずに、かじつ。
150th
YAMAGATA FRUITS

やまがたフルーツ
150周年記念ポータルサイト
はコチラ



報道関係者 各位

令和7年11月4日
農 林 水 産 部

令和7年度山形県農業賞・林業賞・水産業賞受賞者の決定 及び表彰式の開催について

このことについて、下記のとおり受賞者を決定し、表彰式を開催しますので、取材くださるようお願いします。

なお、各賞の概要及び各受賞者の概要等については、別添のとおりです。

記

1 本年度の受賞者

(1) 大高根農場記念山形県農業賞（2名、1団体）

佐藤 茂一 氏 （鶴岡市）
渡部 務 氏 （高島町）
農事組合法人 魁 （尾花沢市）

(2) 川村造林記念山形県林業賞（1名）

深田 周一 氏 （鮭川村）

(3) 山形県水産業賞（1名、1団体）

杉原 義美 氏 （真室川町）
玉庭水田養魚研究会 （川西町）

2 表彰式

日 時 令和7年11月18日(火) 午後2時15分から
場 所 ホテルメトロポリタン山形 「朝日」
(山形市香澄町一丁目1番1号)



【問合せ先】

農林水産部農政企画課

総務専門員 佐野 (TEL: 023-630-2420)

【広報監】 農林水産部次長 小泉

山形県農業賞・林業賞・水産業賞について

おおたかね

大高根農場記念山形県農業賞

山形県自治講習所に大正 9 年に設置された「大高根農場」周辺農地が、昭和 34 年に自衛隊用地として国に譲渡された土地代金の一部を基金とし、本県農業の振興発展に寄与した者を表彰したのが始まり。昭和 55 年からは、県の表彰規則に基づく県知事表彰として表彰している。

本県農業の振興発展に尽した功績が顕著で、かつ、他の模範とされる農業者、農業団体等を表彰し、もって本県農業の振興発展に寄与することを目的とする。

(昭和 34 年以降、令和 6 年までの受賞者は、198 個人、25 団体)

かわむらざうりん

川村造林記念山形県林業賞

本県の第 23 代知事川村貞四郎氏から県に寄贈された山林を基金として、本県の民有林林業の振興発展に貢献した個人、又は団体を表彰するため、昭和 39 年に創設された。

本県の林業・木材産業及び山村の振興において、積極的かつ計画的な活動等により、他の模範となる功績のあった個人又は団体を表彰し、もって本県民有林林業の振興に寄与することを目的とする。

(昭和 40 年以降、令和 6 年までの受賞者は、68 個人、49 団体)

山形県水産業賞

長年にわたり水産業に精励し、経営改善や水産物の付加価値向上、技術開発等に功績があった個人や団体、水産業関係団体の指導的立場にあり、他の水産業者の模範となる功績があった個人や団体を表彰するものとして、昭和 54 年に創設された。

本県水産業の発展について顕著な功績のあった個人や団体を表彰し、もって本県水産業の振興に寄与することを目的とする。

(昭和 54 年以降、令和 6 年までの受賞者は、48 個人、9 団体)

令和7年度 受賞者の概要（敬称略）

※年齢は、表彰式（令和7年11月18日）時点の年齢

大高根農場記念山形県農業賞

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
1	さとう しげかず 佐藤 茂一	73	鶴岡市	昭和51年～現在 農業（水稻等）に従事 平成21年～平成28年 鶴岡市農業協同組合非常勤理事 平成28年～令和6年 鶴岡市農業協同組合代表理事組合長 平成16年～平成28年、令和7年～現在 (有)ソイビーン取締役社長 ・平成16年に(有)ソイビーンを設立。遊休農地の活用や大豆・そばの作付け受託を進め、労働力確保と作付面積の拡大を通じて経営の安定化を実現し、地域農業のリーダーとして活躍した。 ・鶴岡市農協の組合長として、砂丘メロンの収穫可否を判定するほ場格付けや生育調査を実施し、その結果を市場や販売先に提供した。JAと生産者が一体となって品質・食味の向上に取り組み、砂丘メロンのブランド力向上に大きく寄与した。 また、だだちゃ豆については、消費者ニーズや農業者の高齢化に対応するため、選別・包装を一元化する共選施設を整備した。これにより選別精度と作業効率が向上し、生産者の負担が軽減されるとともに、産地の安定供給が実現され、ブランド価値の向上に大きく貢献した。 ・直売施設「もんとあ〜る」のリニューアルや販売面の充実を図り、地域農産物の消費拡大を推進。さらに、鶴岡市立農業経営者育成学校「SEADS」設立に参画し、積極的に運営や研修講師を務めた。研修生に対して経営ビジョンの助言や地域との信頼構築の重要性を指導し、地域の担い手育成に尽力された。

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
2	わたなべ つとむ 渡部 務	76	高畠町	昭和 42 年～現在 農業（水稻等）に従事 昭和 60 年～昭和 63 年 高畠町有機農業研究会会長 昭和 62 年～平成 5 年 高畠町農業協同組合理事 平成 7 年～平成 15 年 山形おきたま農業協同組合理事 平成 13 年～平成 18 年 高畠町有機農業提携センター所長 平成 21 年～平成 24 年 山形おきたま農業協同組合経営管理委員会副会長 平成 27 年～令和元年 高畠町有機農業推進協議会会長 ・昭和 48 年に町の農業青年とともに「高畠町有機農業研究会」を設立し、自ら試作田で技術的試行錯誤を重ねるなど全国に先駆けて有機農業を実践。高畠町のみならず本県における有機農業の発展を牽引する中心的存在として活躍した。平成 8 年には仲間と「高畠町有機農業提携センター」を設立し、消費者グループとの受注調整や出荷管理を行うことで、生産と需要の安定化を図り、全国への継続的な出荷体制を確立し、本県の有機農業振興と持続的発展に寄与した。 ・平成 2 年創設の「たかはた共生塾」では平成 27 年から代表を務め、農作業体験講座の研修生を積極的に受け入れ、その運営に尽力した。平成 10 年には自宅敷地内に合宿小屋「さと小屋・みず穂」を整備し、年間延べ 100 名にのぼる大学生等を受け入れた。現在は、アジア学院の学生を主に迎え、有機農業の意義を伝える教育を実施。これらの取り組みを通じて町外からの定住者も増え、新たな農業の担い手として活躍する人材を育成するなど、新規就農と移住・定住の促進に大きく寄与している。

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
3	のうじくみあいほうじん 農事組合法人 さきがけ 魁	—	尾花沢 市	平成 27 年に設立 ・優秀な農業後継者の育成・確保を目的に法人化し、75 歳定年制や計画的雇用を導入して持続可能な法人運営体制を構築した。さらに、東北で第 1 号となる「環境負荷低減事業活動実施計画認定」を取得し、先進的なモデル事例を示した。土壌診断に基づく牛ふん堆肥の施用や化学肥料の窒素成分低減を実践し、化学農薬を使用しない栽培管理に取り組むことで、地域の環境保全と資源循環に大きく貢献した。 ・山形県を代表するそば品種「最上早生」に限定した作業受託を担い、「やまがたそば街道」の中核産地を形成した。さらに、遊休農地の引受けや小学校での栽培体験を実施して、地域農業の維持・発展と次世代の育成に積極的に取り組んでいる。

川村造林記念山形県林業賞

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
1	ふかだ しゅういち 深田 周一	78	鮭川村	昭和 59 年～平成 9 年 鮭川村菌茸生産組合連絡協議会会長 平成 6 年～平成 10 年 J A 鮭川きのこ生産組合組合長 平成 7 年～平成 12 年 鮭川村農業協同組合監事 平成 12 年～平成 28 年 山形もがみ農業協同組合監事 ・昭和 42 年に農閑期の農業所得確保策として県内でいち早くエノキタケ栽培を開始。昭和 47 年からは、温室度を制御できる空調設備を導入し、試行錯誤しながら周年での施設栽培技術の確立に尽力。その後、平成 4 年に県内でいち早くブナシメジ栽培に取り組み、ブナシメジ栽培技術の普及に貢献した。また、当初から培地に県産材を使用しており、木材・林産振興に貢献した。 ・鮭川村内の菌茸生産者で組織する「鮭川村菌茸生産組合連絡協議会」の会長や「JA 鮭川きのこ生産組合」の組合長として、研修などを通じて技術普及に取り組み、長年にわたって他の菌茸生産者をけん引した。 ・昭和 63 年には、地元で種菌を安定的に供給できる基盤を構築するため、他の菌茸生産者と連携を図り「農事組合法人鮭川種菌センター」の設立に尽力し、エノキタケ生産者やブナシメジ生産者の生産性の向上に貢献した。

山形県水産業賞

番号	ふりがな 受賞者氏名	年齢	住所	主要経歴等
1	すぎはら よしみ 杉原 義美	90	真室川町	平成 16 年～平成 28 年 最上漁業協同組合理事 平成 28 年～令和 7 年 最上漁業協同組合代表理事組合長 平成 28 年～令和 2 年 山形県内水面漁場管理委員会委員 令和 3 年～令和 7 年 山形県内水面漁業協同組合連合会理事 ・最上漁業協同組合の役員として組合の運営とその発展に貢献したほか、平成 28 年から山形県内水面漁場管理委員会委員、令和 3 年には山形県内水面漁業協同組合連合会の理事として、山形県全体の内水面漁業の発展に貢献した。 ・アユ釣り大会や鮭川鮭有効利用調査（釣獲調査）の開催を主導し、令和 6 年までにアユ釣り大会は 13 回、鮭川鮭有効利用調査は 16 回を開催した。両大会の延べ参加人数は計 5,300 名にのぼり、全国各地から参加者が集まったほか台湾からの参加者もみられ、遊漁者の増大や交流人口の増加により内水面漁業やサケふ化事業の周知を行うなど内水面地域の活性化に貢献した。 ・小中学生を対象としたアユ釣り教室や体験学習を開催し、将来の内水面漁業の担い手や遊漁者確保に尽力した。

番号	ふ り が な 受賞者氏名	年 齢	住所	主要経歴等
2	たまにわすいでんようぎょ 玉庭水田養魚 けんきゅうかい 研究会	—	川西町	平成 15 年に設立 ・置賜地域の郷土料理である「むくり鮎」の原料となるフナの生産から加工、販売を一貫して行う 6 次産業化により付加価値向上に努めたほか、郷土料理の文化的価値を活用した PR による普及活動を行い、内水面漁業の振興に貢献した。 ・平成 17 年には玉庭農産物加工センターを整備し、「むくり鮎」生産量及び販売を拡大した。その結果、道の駅などの観光施設やスーパーマーケット、宿泊施設など町外に広く販路を拡大し、売上を向上させたことで会員の所得向上と内水面魚種の流通増加に寄与した。 また、地元の小中高生を対象とした「むくり鮎」を用いた食文化伝承活動を実施し、将来的な担い手育成と地域の文化継承に尽力している。